

NILZZ

RACING FACTORY

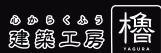
MOTEGI GT 300km RACE

SUPER GT SERIES 2021 ROUND.7 RACE REPORT

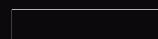
| | | | |
|----------|----------------------------------|---------|---------------------------------|
| カテゴリ | : SUPER GT SERIES 2021 GT300 クラス | 公式練習 | : 1'49.787 (GT300 クラス 28 位) |
| エントラント | : NILZZ Racing | 公式予選 Q1 | : 1'49.431 (GT300 クラス B 組 14 位) |
| カーナンバー | : 48 | 公式予選 Q2 | : ---- |
| マシン名称 | : 植毛ケーズフロンティア GT-R | 決勝 | : GT300 クラス 23 位 (57 周) |
| ドライバー | : 田中優暉・飯田太陽 | | |
| 開催地 | : ツインリンクもてぎ (栃木県) | | |
| 開催日 | : 2021.11.6~2021.11.7 | | |
| 天候 | : 晴れ (11.6) 晴れ (11.7) | | |
| イベント 動員数 | : 6,100 人 (11.6) 12,000 人 (11.7) | | |



アーツ銀座
クリニック



設計・監理
曾我建築設計事務所
SOGA ARCHITECTURAL OFFICE





2021年スーパーGTシリーズ第7戦が11月6日～7日にツインリンクもてぎ(栃木県)で開催された。この時期のもてぎ大会はシリーズ最終戦としての位置付けが大きかったが、昨年の緊急事態宣言発令による大幅なスケジュール変更、今年の東京オリンピック開催に伴い、今期2度目の開催となる本戦は他のレース同様300kmのレース距離で争われる。

前回のオートポリス大会で激しいクラッシュにより参戦が心配されるほどの損傷だった植毛ケーズフロンティアGT-Rは、チームのハードワークにより修復され、第7戦の参戦にこぎつけた。

ツインリンクもてぎ近辺に本拠を構えるNILZZ Racingとしてはホームコースでの重要な一戦。今回は田中優暉と飯田太陽のレギュラードライバーで挑んだ。

11月6日(土) 公式練習

雲一つない爽やかな秋空が広がったツインリンクもてぎでは9時25分より公式練習が行われた。田中のドライブでコースインした植毛ケーズフロンティアGT-Rはインストラクションラップを行い、いつもより入念に各部をチェックした。

序盤はペースをかなり抑えた田中だったが、それでも修復後のマシンのフィーリングに好印象を抱いていた。公式練習中は細かなトラブルはあったものの、順調に練習走行におけるプログラムを消化し、予選に向けての準備を整えた。

11月6日(土) 公式予選

午後コンディションは変わらず、ドライコンディションで行われた公式予選。予選Q1は今回も2グループに分けられ、NILZZ RacingはBグループに割り振られた。今回のNILZZ RacingのQ1アタックドライバーは田中。





田中はコースイン後、入念にウォームアップを行なった後、アタックを開始する。

最後のアタックで1分49秒218までタイムを縮めるが、Q2突破ラインには届かず、GT300予選Q1 Bグループは14番手。その後の予選Q2終了後の正式結果で27位という結果となった。

11月7日(日) 決勝

予選日同様、好天に恵まれたツインリンクもてぎ。

決勝前に行われたウォームアップ走行にて、飯田がドライブ中にGT500クラスのマシンと接触し、植毛ケーズフロンティアGT-Rはフロントバンパーと左フロントフェンダーを破損してしまう。

ピットに戻ると直ぐに修復作業が始まった。

破損の激しいバンパーとフェンダーはアッセンブリーで交換され、足回りのアライメントチェックや給油など、メカニクスの迅速な作業によってピットロード封鎖直前でコースに送り出すことに成功した。

13時06分、決勝レースがスタート。NILZZ Racingのスタートドライバーを務めるは飯田。

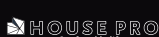
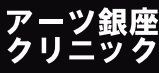
2周目に先のウォームアップ走行での接触の原因との判定により、ドライブスルーペナルティの裁定が下り、飯田はすぐさまこれを消化した。

このペナルティ消化により前方とはかなり差が開いてしまったが、少しでも差を縮めるべく力走を続けていった。

一時は21位まで順位を上げた飯田は29周目にピットインを行い、田中へとバトンをつなげる。

田中は終盤になるにつれて激しくなる展開の中、自らのスティントを走りきり、植毛ケーズフロンティアGT-Rをチェッカーフラッグへと導いた。

NILZZ Racingのホームコースで行われた第7戦の結果はGT300クラス23位と言う結果で終了した。





まずは前戦のクラッシュからの修復に関してご尽力いただきました関係各位に御礼申し上げます。
 そしてエンジニア、メカニック、そしてチームスタッフ全員が今回のもてぎ大会の出走に向けて見せた努力を誇らしく思います。
 次戦富士大会で本年度の SUPER GT シリーズ最終戦を迎えることとなります。
 シリーズランキングをできる限り上位で終えるべく、最後まで頑張りますので、皆様のご支援、ご声援のほど、宜しくお願いいたします。

